

□ 10の疾患 と 3つのアプローチ

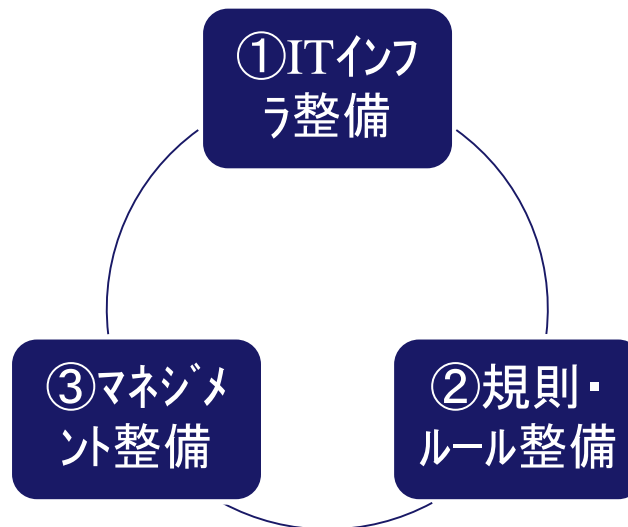
※ リモートワーク導入により、下記のような10の疾患が会社内に見られるようになります

【10の疾患】

- | | |
|------------------|-----------|
| 1 マイクロマネジメント | 2 承認マン |
| 3 非生産性排除 | 4 誘惑に惨敗 |
| 5 運動・刺激不足 | 6 成果の見せる化 |
| 7 自分(たち)さえよければいい | 8 異変に同感 |
| 9 リモートワーカー殿様 | 10 あの人は特別 |

※ 10の疾患の処方性として3つのアプローチが必要です

【3つのアプローチ】



□ 10の疾患リスト

	疾患対象	疾患名	起こりうる現象
1	上司	マイクロマネジメント	細かいことまで何かもかも確認しないと気がすまない。思いつきのように「あれどうなっている?」と確認したが、本人も部下も疲弊する。
2		承認マン	部下からの承認・決済依頼対応で1日が終わる。件数が多く、長時間PCから離れることができなくなり、精神的負荷がかかる
3		非生産性排除	何のためにやっているのか目的やゴール、思いなどを伝えきれない。生産性を考えて作業指示のみのため、結果品質が上がらない。
4	部下	誘惑に惨敗	職場以外であれば様々な誘惑が多く、他人から見られている公の意識が低下。仕事モードへの切り替えが困難で、集中力が下がり生産性が上がらない。
5		運動・刺激不足	通勤と外出が減り、身なりなども気にしなくなる。苦手な人に直接合わなくても済む。外部の刺激に順応しようとする姿勢がなくなる。
6		見せる化	「自分は仕事をしっかりやっていますよ」というアピールばかりが上手になる。仕事の難易度や量をあれこれ言われて、なんとなく上司は屈服してしまう。
7	組織全体	自分(たち)さえよければいい	会社(またはチーム)全体の動きや方向性を見失いがち。他人や他チーム、他部署への関心が薄くなり、自分のことさえやっていたらいいと思いつんでしまう。
8		孤立化・孤独化	直接会える回数が減るにより、周囲の人の異変(健康的・精神的)に気づきにくい。自分から相談できないタイプの人材には特に注意が必要。
9		リモートワーカー殿様	ノンリモートワーカーがあれこれリモートワーカーから依頼をされる。「〇〇の資料を出しておいて」「〇〇を自宅へ郵送してほしい」など。パシリにされてストレスになる、
10		あの人は特別	規則やルールが整備されていないため、その都度取り決めをしていく。スタッフ数が増えていくことで、全体の整合性が取れず「あの人は特別」という人が出てくる。